

工業史の一断片（下）

淡川康一

同様に、絵画及び鏡を枠に入れることが、製本師の以前の木材仕事から淵源した様に思はれるのである。

而して是等の仕事は、小都市にあっては、製本師が今日迄保持して来た処の仕事の一つでもある。ニューリンベルグ (Nürnberg) に於ては、此の行為は、鏡師の一の争ひにまでなつたのである。而して、此の争ひは、一六六七年に、分たれた鏡師の手工業が止揚され、その仕事の領域が、製本師と融合することで、終結を告げたのである。(vgl. die oben angeführte Stelle des Ratsbeschlusses vom 26. März 1667 und Schönlanke, Die Fürther Quecksilber = Spiegelbelegen und ihre Arbeiter, S. 35.)

木製の表紙が冷ねて使用される状態は、古い時代の

大なる大本の型に見る様に、永く続いたのであるが、すでに第十六世紀の後半に至り、是と並んで、板紙の表紙が小型の書物に対して使用される様になり、十二世紀に入るや、後者は愈々其の地盤を固め、遂には木製の表紙を完全に排除するに至つたのである。かくして、木材を細工することは、その経営から退却し、或ひは、木材を細工することが、絵画の枠に類して必要である範圍に於て、指物師が其代りに引き寄せられたのである。是等の事情に反して、板紙が進出し、製本師は是等の板紙を永い間に一緒に合された板から調製したものであつた。而して、此板紙は製本に際してのみならず、又容れ物の製作に当つても用ひられ、かくして、容れ物の製作は板紙細工又は板紙仕事となるのである。一

方に於いて、此の板紙細工は包装箱及び小間物類の範圍に於いて、大なる活動範圍が開け、他方にあっては、板紙細工は、紙の軟塊を乾燥して固めることの発明によつて、次の様な動機が与えられたのである。即ち、時々玩具、特に人形作りの人形の頭を製本の経営の中へ収容す可き動機これであり、而かも、このことによつて、此の手工業の一つ本質的の強化が得られることはなかつたのである。

木製の表紙と共に、皮革技術が又退歩することになり、而して、暫時、平滑な金具製本が流行したのである。皮革は本来の表紙からその姿を消す様になり、而して、唯本の背面と角に於いてのみ、保持されるに過ぎないことになり、同様に、時が経過すると共に、其は金具に移行したのである。その代りに、表紙は色紙及び波紋紙を以つて覆はれることになり、此の傾向はすでに第十六世紀に認められるのである。而して、是等の仕事は、製本屋自身に於いて準備、調整したのである。又表紙は、ここでは、屢々金の圧縮された飾りを

以つて裝飾されたのである。然し、是等の仕事も亦、第十七世紀の末葉及び第十八世紀に於いては、製本者から離れ、その代りに、本来の「紙梁色者」及び第十九世紀の初頭以来、本来の色紙製造工場が登場するに至つたのである。（Philip De sauer, Entstehung und Entwicklung der Bunt papier-Industrie, Separat = Abdruck aus „Der Papierhandel“, Jahrgang 1889.）然し、此の技術の痕跡は、現今の経営まで、次のことによつて保存されて来たのである。即ち、古の色及び金の切断以外以前に、飛抹状及び波紋状の切断が現はれ、一般に、角及び断面の飾りが、表紙図案が減つた程度に依じて、逆に進入して来たのである。

皮革で覆はれた本の表紙から、金具製本まで、金具製本から半ば犢革綴及び板紙製本へと発展したことは、書物の堅固性が漸次減じたことの段階とも認めることが出来るであろう。然し、此の反面には、書物を取扱ふことの容易さが増して来たこと及び製本の安値化が含まれてゐるのである。然し、一面に於いて、趣味が減

少したこと及び技術工芸的性質の低減したことは、此の発展の必然の結果であつた。更に、次の一事は是を看過し得ないであらう。即ち、広い国民層に於て、本の使用が増加するに至つたことに貢献したのである。

加ふるに、次のことによつて、条件付けられたのである。彼の古い、無限に努力に満ちた手工業によつて作られた豪華版、是等のものは今日尚ほ蒐集家を狂喜せしめるものであり、豊かな手当によつて抱えられた宮廷製本者の労作か、又は富める愛好者によつて誘致された創作物であり、是等のものは、何れも、屢々其の本の内容が無価値なものであるのに対して、明白な矛盾に立つのである。然るに、第十八世紀の製本者は大なる公衆の爲めに働いたのであるから、従前に比して、より少い仕事を提供せねばならなかつたのである。而して、その理由は、次の事情に求められるのである。即ち、製本者へは、毎日、本の型式及び製本の装訂に関して、極めて種々な要求が到達し、又顧客仕事と云ふ不確実な経済上の理由からして、製本者をして、その

生産領域を過度に拡大せしめ、而して、その生産領域の各方面に対して、屢々、極めて切りつめた道具の備付けで、満足せねばならなかつたのである。

技術と組合組織とによつて与えられた、他の工業との近隣性は、労働領域の多くの混合にまで発展したのであるが、特に製本者が万屋、小間物品(小売商人)の処で組み合はされた処の都市に於いては、その小売商業経営の大なる拡大を誘致した度毎に、認可時代の経過裡に、一般になつた処の同業組合組織の主なる意義は、多少の差はあるが、かかる争はれた補助源の開設に非ずして、むしろ、次の点にあつたのである。即ち、彼等製本者が印刷者、発行者及び本の小売商人の強大なる勢力を防ぐことが出来た処の基礎を得たこと、これである。

彼等製本者は先づ本を商ふ権利を保護せんと試みたのである。而して、このことは、彼等に対して、製本された本のみならず、暫しの間は、製本されざる本に対しても、成功したのである。アウグスブルグ(Augsb.

burg) から、一六四二年に、個々の都市に於ける書籍商に対する製本屋の關係に就いてのアンケートが施行された時に、北独逸及び南独逸に於ける若干の都市が引用され得るのであるが、是等の都市に於いては、彼等製本者はその権利を無制限に所有してゐたのである。是は勿論絶対的に非ずして、共通的に、本の小売商、本の印刷者、挿絵描き等と共同して、所有してゐたのである。個々の都市に於いては、製本者は極めて強大なる勢力を有し、為めに、彼等製本者は、本の小売商に対して、製本した本を販売す可き権利を妨げることが出来たのである。他面に於いて、彼等は、少くとも、次のことを遂行するのである。即ち、小売商は、かかる仕事を、即座に製本せしめねばならぬ。

経営権を持つてゐるだけでは、たとひ経営権を實行す可き手段が存在せなかつたとしても、産業制限の時代に於いても、何等の役にも立たないのである。事实上、製本者の書籍商業は、然し、到る処、小冊子及び新聞紙等の傍ら、祈禱書及び教科書に限られてゐたの

である。而して、時代が経過すると共に、彼等製本者の経営権も亦、此の事実上の状態に応じて、制限されるに至つたのである。すでに、一六五二年に、ストラブルグ(Strasbourg)の製本者には、次のことが禁止されたのである。即ち、「粗野な、或ひは製本された、特に他国の、又他の出版本を購入したり、又再び販売したりすること」、これである。然し、之と類似の規定は、同じ世紀の後半以来、大抵の都市に於いて、弘布されるに至つたのである。而して、一部分は、領主の同業組合組織へも亦、移行したのである。暫らくの間は、製本屋は、其の有する処の、總ての製本された本の販売に基く権利から、古本屋を誘導して、自己へ引くことが出来たのである。然し、此の商業部門には、企業家の専門智識として、高い要求を置くのであるが、此の要求には、彼等は、永い間には、沿ふことが出来なかつたのである。

之と同様に、製本家組合には、次のことが、成功し得なかつたのである。即ち、紙及び文房具類への絶対

権を、此の商品への、万屋商の要求に対して、獲得することが殆ど出来なかつた。若し、彼等製本者が、是等の商品の販売権を得たならば、彼等は喜んで之を引受けたことであらう。

彼等は、是に対して、彼等の、生産に関する権利を保護することに於いては、一層幸福であつた。製本者の徒弟を保持する為めには、印刷者及び発行者との間の争議が、大抵の都市に於いては、一七世紀まで継続し、而して、屢々、此の争議は、製本者組合の自己補助によつてのみ、次の方法に依り、解決されたのである。即ち、本の印刷者又は小売人の処ですでに働いて来た徒弟を、不正なものと解釈したのである。

之と同じ方向に於いて、若干の厳格性が保たれたのである。其の厳格性を以つて、製本者同業組合は、次のことを主張し、守つたのである。即ち、結婚した徒弟を雇傭せない様にする、又は之に親方の権利を許可せない様にする、ことである。かくして、このことは、次に述べる事情とは、著しい対照を成すのである。

即ち、本を平均にすること、紙を折ること、綴ぢること等、凡そ是等の従属的な補助業に対する、婦人の労働は、以前から、製本者の仕事場に於いては、甘受された様である。勿論、普通の場合には、次の程度で止められたのである。即ち、親方の妻、娘及び女兒が、此の際、その仕事に當つたのである。尚ほ一七四四年に於いては、此の事情は、次に引用する事柄が示す通り、極めて普通の事となつて来た様である。即ち、牧師が、彼の「製本者及びケース製造者に於いて、次の事を、一人のよい製本者に対して、一の幸福として示してゐるのである。それは一人の夫人を持つて居ること、此の夫人が、天の爲めに、手工業の補助を以つて、取り掛らんと欲するよりも、むしろ好んで、紡ぐことを待機してゐる。」(Nürnbergger Ratsbesch. IuB. von 1715 [Art. 33], Ausburger Ordnung von 1720, Art. 20 im Archiv XIX, S. 56.)

かくして、製本者は、その本来の仕事の領域に於いては、同業組合の立法によつて比較的確實な限界に迄

到達してゐたならば、彼等製本者は、容器の製作、小形の皮革製品、絵画の額縁等の副業の領域の上で、本来の禁止権を獲得するに至らなかつたであらう。尤も、是等の副業面に於いては、何等製本者は、以前から、他の手工業者と共に競争してゐたのである。而して、彼等製本者は、是等の領域を、夫々の工業と共に、累積的に所有したのであった。唯、容器の製造に於いてのみ、評言すれば、此の事業が、むしろ、板紙の仕事になつた程度に於いて、絶対的権利の一種が形成されたのである。而して、此の権利は、他の、より古い手工業の何者と雖も、此の仕事に対して、要求す可き権利を持たなかつたので、愈々容易に根を下すことが出来たのである。

全体として概観すれば、次の事が強調されねばならぬ。即ち、製本者にあつては、彼等の手工業が、其の起源が比較的若いにも拘らず、その同業組合の結合は夙に特別な強固性を体験し、而して、個々のものに就いて見れば、独得の完成を体験したのである。すでに

一六世紀に於いて、次の様な現象が見られるのである。即ち、その同業組合は、一の形式的な原料協同組合、信用協同組合及び消費協同組合等を形成してゐたのである。フランクフルト (Frankfurt) の親方は、一五八九年に、四週間毎に各九パニヒを、皮革及び板を協同して、購入する為めに、書籍箱へ入れたと云ふ記録が残つてゐるのである。(Frankfurter Buchhinder-Ordnungen, S. 42, 6.) ニューレンベルグ (Nürnberg) に於いては、其の土地の親方連は、一六九一年に、次の方法により、尚ほ一步を進めたのである。即ち、その地の親方の連中は、個々の人々が、彼等の店に於いて売り扱めてゐた処の普通新聞を、総ての人に對して、その全体の手工業を通して、関係せしめることを決議したのである。(Zusatz zur Ordnung vom 28.

Februar 1691 [zwischen Art. 18 u. 19].)

かく見来れば、すでに、極めて早い時代に、輓近の協同体制度の本質的要素が見出される訳である。このことは、大部分、次のことから説明されるのである。

即ち、製本者の平均の教養程度は、大抵の、他の都市の手工業者のそれを凌駕してゐたのである。然し、彼等の中には、屢々次の様な人々も、可なり多数混つてゐたのである。それは、当時の羅典語学校に通学してゐた処の、貧しい学生であつたが、又屢々、是等の学生とは反対に、富裕な愛書家、学者等もあつて、是等の人々は、製本の技術を、自家の需要の爲めに、学び且つ練習したのであつた。然し、大都市及び大学の所在地に於いてのみ、正しき組合生活が行はれ、是等の都市にあつては、製本者は、印刷者及び本の小売商の如くに、大学の一統に加算され、而して、大学総長の監督の下に、学問上の裁判権に下屬せしめられたのである。而して、親方と徒弟とは、此の特権を、極めて明確に意識して居たのである。彼等は、同業組合の権利の保護が問題となつて居なかつた場合には、組合の名前を拒絶したのである。而して、相互の間に、唯、

「芸術を愛する社團」を云々したのみであつた。是等の事情があつたにも拘らず、時と共に、同業組合の組

織は又他の小都市へも拡大、分布するに至り、而して、一八世紀の終りには、安逸の全般に至り、組合に屬せない製本者は一人も居なかつたのである。このことは、次の方法により、達せられたのである。即ち、一の独自の組合を持たなかつた処の、総ての都市の親方は、近隣の、より大なる都市の組合の集會に際して、併合せしめられたのである。かくして、一七四四年から一八二〇年迄の間に於いて、四十三の都市及び境太利の各地の王領地に於ける市場所在地の、六十七以上の製本者は、維納の製本者組合に際して、合一されるに至つたのである。ヴェルテムベルグ (Württemberg) の全市に於いては、当時、スツットガルト (Stuttgart) にあつて、唯一の組合集會があるに過ぎなかつたが、此の集會にあつては、地方の総ての親方は、勿論、巨額の手数料を支払ふことなしに、自己及びその徒弟を登記せしめたのである。

正に製本者にあつて、著しい強固性にまで發展したのは、徒弟の組織であつて、之が、此の不思議を、官

辺の干渉なしに遂行して来たのである。その元来の施設に於いては、此の組織は、たしかに一六世紀以来、大抵の、古い組合手工業者にあって、生じた処の徒弟兄弟社会の制度に遡るのである。かくして、此の組織は、然し、本の印刷者に於ける徒弟組織に於けると同様に、独逸の学生気質の習慣から、多くのものを伝承するに至ったのである。特に証言（寄託）すること又は試験すること、即ち、あらゆる馬鹿氣た風習、特に不仁なる愚弄することと結合する、組合への收容は、その著例である。此の收容には、単に都市で免状を許可された徒弟のみならず、総ての、何等組合の集会の成立せなかつた処の都市で学び又は働いた徒弟が服さねばならなかつたのである。而して、試験されなかつた徒弟は、大抵の都市に於いては、作業へ備はれることが出来なかつた。彼の徒弟組織は、それ自体、可なり進んだ処の裁判権を要求したが、此の権利には、若干の場合には、親方自身が服さねばならなかつたのである。此の組織は、彼等の法律に服さなかつた処の各

人を、悪評を以つて追放し、更らに移動者にも共に通告を發して、違反者が滞在するかも知れぬ場処に於いても、之を禁止したのである。而して、是等の制度は、単に親方によつて促進されたのみならず、更らに、長期に亘り、官辺の認可を獲得したのであつた。一七三一年の國家決定すらも、それを、殆ど変更するに至らなかつたのである。大抵の、大なる都市に於いては、徒弟組織は、ひそかに、又は公然と、一九世紀まで維持されて来たのである。

総ての、同業組合ならざる作業を除かんとする努力に於いて、親方と徒弟とは一致団結し、而して、彼等は、製本者にあって独特に組織された処の宿泊制度、疾病保険、巡行保持、而して、労働指示の領域上に於いても亦、共同的活動の一分野を見出したのである。此の分野は、彼等にあつては、より狭く且つより永続的の系統を創造したのたのである。此の傾向は、大抵の、他の手工業者の間にあつて、同業組合制度排除前の最近に於いて見出されたものに比較して、一層顕著

である。吾人は、此の都市に於ては、より詳細に立入ることは出来ないが、然し、次のことは、強調されねばならぬのである。即ち、親方聯合及び徒弟聯合は、到る処、可なり大なる都市に於いては、すでに、第一八世紀に於いて、色々の金庫制度によつて、彼等の困窮に悩む組合員の保持を確保したのであつて、このことは、他の工業に於ては、殆ど見出されなかつたのである。

勿論、此の施設は、次のことを妨げることが出来なかつたのである。即ち、時代がたつと共に、製本者工業は、技術的にも、又経済的にも、退歩したのである。一七七五年に、ベルギウス (Bergius) は、次の如く記述してゐる、「此の手工業は、単に大なる、而して、中位大なる都市へは属せずして、むしろ、次の様な都市に属する。即ち、地方の本山、大学及び他の高等学校、従つて多くの学者が居住する都市、これである。而して、其の手工業は、田舎、村落、小市場町、又は小さい農業都市は帰属せないのである。」かかる事情

あるにも拘らず、第一八世紀に、多数の製本屋が小さい都市に定住して了つたのである。然し、彼等は、此処で、その生活の資を見出すことが出来なかつたのである。而して、正に、同業組合の制約が、此のことを恵与したのである。存在した処の、僅かの製本者組合は、正に財源の爲めに、合併したのである。若し、卅哩毎に隔てる市場町又は小都市に於いて、彼の職業によつて生活し得なかつた処の、一人の親方が定住したならば、このことは、彼等にとつて、何が責任があるか。固有の都市に於ては、製本者の同業組合は、親方の子供、親方の婿を恵むことによつて、商社の株の価格たる、高い購入金を基として、此処、彼処で、同業組合を締結し、各分業の進出を妨げたのである。(vgl. Frankfurter Buchbender = Ordnungen, S. 14 ff.)。フランフルト (Frankfurt) の製本者の同業組合へは、例之、一八三四年から一八六三年の間に於いて、唯七人の外来者が五一の親しい親方の下で、加入を許可されたのであるが、何れも、親方の従兄又は娘と結婚するこ

とを、其の条件としたのである。

大都市に於ける同種結婚は、必然的に、小さい、農業小都市に於ける仕事場の建設を、自己へ吸引する結果となる。是は、小都市に於いて、仕事場を建設することを拒絶された徒弟の側から起つたのである。而して、かかる状態は、更らに、製本の技術に対して、憂ふ可き結果をもたらすに至つたのである。昔の製本術は、困難な、而して、極めて種類の多い手仕事の多量を必要としたのである。打石、圧縮、切断鉋、是等は、何れも著しい体力を必要とするのであるが、更らに、是等の作業と並んで、綴ぢること、又は金を入れる様な、軽易な、而して、堪能な手を要するのである。殆ど各々の、個々の巻は、之を個別的に取扱ふことが好まれたのである。綺麗な、入念の趣味深き仕事を為すためには、規則的の、余りにも等しからざる仕事が必要であつた。然し、大抵の都市に於いては、如何なる製本者と雖も、製本だけでは、生活することが出来なかつたのである。よりよき製本は、多くの人々にと

つては、唯稀にのみ、その手に落ちるのである。かくして、手工業の堪能性は、時代が経過すると共に、徒弟として、比較的よいものを提供した様な人々にとつては、失はねばならなかつたのである。而して、かかる仕事場に於いて、完成された徒弟からは、何が期待され得たか。一六二六年、ヴェルツブルグ (Wurzburg) の宮廷本印刷者のチンク (Zink) が、次の如き表現、「その製本者手工業に於いては、一人半より、より多くの親方は居らぬ。他の人々は、何も知らないのである。而して、一冊の本も、正しく製本することが出来なかつた」を行つてゐるか、このことは、元來、最近まで、その正当性を、手工業による製本術の大部分に対して持つのである。尚ほ、十九世紀の中頃に於いて、技術的に見て批難のない処の、趣味深き製本は、唯、大学都市、官庁都市及び大般の主要所在地に於いてのみ、之を得ることが出来たのである。是等の都市に於いては、常に有能者親方の一系統が保存されてゐたのである。是等の親方には、当時盛行した処の顧客

仕事、充分の多方面性と高度の技術的能力を確保したのである。是等のことは、次の事実を思ひ浮べるならば、充分了解することが出来るのである。即ち、親方の学校から出た処の労働者は、好んで巴里又は倫敦に於いて、その力量を試みたのである。而して、是等の都会に於いて、一部の人は、彼等が安逸の小都市に於いて、萎縮状態にあつたよりも、むしろ好んで、開拓的に働らいたのである。(The art of book binding London, 1879.)

若し、技術的に見て、製本術が、三個の世紀に於いて、殆んど進歩せなかつたならば、又製本術か、芸術的に見て、此の時に於いて、拒絶す可くもなく、退歩したならば、このことは、本質的には、其の退歩的の経営方法にあつたのである。此の経営方法は、元來、尚は賃仕事として、特徴付けられねばならぬ。蓋し、手工業がその技術を働かす処の半製品は註文者から提供されねばならぬ。而して、親方の、全体の資本施設は、皮革、原紙、色紙、金箔等の附屬品の上のみ、

及ぶに過ぎないのである。勿論、又次の様な出版者もあつた。即ち、それは部分商品を製本せしめた人々であるが、然し、この様な出版者は余りにも個々の存在してゐたために、彼等の需要だけでは、完全な制度が適合されてゐなかつたであらう。而して、一九世紀の第五〇年迄は、此の實際は、唯教科書、讚美歌、祈禱書類上のみ拡大したに過ぎなかつたのである。是等のものに於いては、次のことが、製本者にも亦、可能であつた。即ち、それは彼等が賃仕事者として登場することであり、彼等は此の本の部分の割引を以つて買ひ入れ、是を製本し、而して個々に是等を販売したのである。

漸く出版者が、文藝的な、又通俗科学上の性質の作品の全体の出版物を製本し、市場へもたらすことに移行したときに、製本術の一発展への可能性が、与えられたのである。このことに対する条件は、安価な、而して同時に目につき易い、而かも耐久力ある製本をすることであつた。此の目的を達する手段は、更紗の発

明であり、是は次のことを可能ならしめたのである。

即ち、殆ど耐久力のない厚紙製本と無器用な仮綴本の代りに、金のクロース綴りか、初めて廿年代に、ライトン (Leighton) に依り応用され、完成された処の英国から、独逸へ来り、而して、此処で、四十年代の中頃から、製本技術に於ける、真の革命を惹起したのである。大量製品の、安値な製造によって、材料の高い原価が、今や遮げにならなかつた現代、直ちに次の様な方法が発生したのである。それは、製本者の労働過程を、順序に機械にかけること、これである。永い間忘れてゐた処の原紙刻印と金庄とが、再び採用された。而して、今日、吾人は、機械的な大製本業が、機械の多くの肢分された処の施設で生産してゐるのを見受けるのである。それは、手工業には、殆ど余す処なきものであり、而して、同時に、手工業は、極めて簡単な労働へ分肢され、ために、手工業は、大部分、学ばざる、而して、婦人の補助力に委ねられ得るに至つたのである。

機械的準備の完成は、時代がたつと共に、極めて高い程度に到達するに至り、ために、より安値な材料を使用することが、爾後の生産費の転減に対して、もはや、何等著しい役目を果さぬ様になつて来たのである。今日、金具、皮革、及び半皮革等に依る裝飾は、機械的經營に於て、製造され、是は、單なる手工業に依つては可能でない処の、繊細、堅牢及び芸術的完成の見地より、言い得るのである。あらゆる工場工業が一度は経過せねばならぬ処の粗製濫造の幼年時代は「蒸汽製本」によつて、久しき以来、すでに、克服されるに至つたのである。勿論、蒸汽製本業は、大量生産に對してのみ、応用され得るのであるから、従つて、大なる販売が確保されてゐる処の工場に對してのみ、行はれるのである。而かも、此の製法は、次の様な本に對してのみ、用ひられのである。それ等の本は、出版者によつて、紙の包装に於いて綴られて、流通市場へ送られるものである。故に、唯個別的に、購置者によつて、製本の目的を以つて、与えられる。かかる本に

とつては、手工業の経営は、維持されて来、而して、将来に於いても亦、維持されるであらう。蓋し、継続して、此の場合には、各個の巻の、個人的の取扱ひが、依然として、必要となるからである。

工場制の大経営が、手工業の小経営に対する関係は、正に製本業に於いて、独特なものがある。両者が相互に競争することは、元来、次のことを云はしめないものである。即ち、彼等の顧客層は、すでに、元来、全然異なる層である。大規模の製本業は、唯、大量生産としてのみ、利益を挙げて居り、是は、此のことによつ

てのみ、出版業及び印刷業の補助工業となるのである。而して、最近六十年の間に、書籍の小売取次店の施設及び其の分布に依つて、一の著しい促進を体験するに至つたのである。このことは、他面に於いて、書籍の、此の形態を、初めて可能に、且つ収益的にしたのである。彼等の註文者は、新しい出版物に対して、部分製本を要求するのであるが、このことは、織物師が染色者に対すると同様の関係である。然し、若し、出版

経営が、大きく、且印刷業を附属さす程充分に多面的となるに至れば、是は、印刷業に対して、やがて、機械的製本業に向つての階制度を継がしめるであらう。経営集中の、此の種類が更らに進行すると、多分、将来、次の様な状態が発生する。即ち、是にあつては、僅かに、大なる出版企業の総てが、印刷処、製本処、活字鑄造処、木彫処等を結合して、国民の、本の需要を充足し、而して、独立の、大なる製本業にとつては、死の宣告が下されるであらう。

時々、独立の大製本業は、当時総ての、大なる出版処に存在し、而して、是と並んで、多くの場処に分布する、手工業の小製本業に、其の存在を許すのである。此の小製本業は、個々の製本を、消費者の註文に依つて作り、かくして、一般には、ボール箱の、商業の多くの形ちのものを、結合するのである。是等の顧客経営の生産費は、最近数十年の間に、非常に増大するに至つたのである。為めに、製本価格は、需要を制限し初めつつある。他面に於いて、出版者は、製本と仮綴

本との中間のものとも見る可き、安値な本固めを作ることによつて、消費者に、製本せしめる費用を節約し、而して、自己の販路を拡張することを、試みつつある。かく見れば、次の如く論断することは出来ないであらう。即ち、古の製本者手工業について残留するに至つたものが、更らに進行する分裂に反対して、確保される様に見え、又は、その生産領域上の、更らに一層の発展の見込みを持ち得ること、之れである。その伝統的の手工業経営に加えて生じたのは、レクラムの大衆文庫に見る如き、安値な大量商品にのみ限定され、新しい生存力の源泉としては、殆ど見做され得ないであらう。

勿論、最近数十年の間には、小経営も亦、本質的の諸点に於いて、変化するに至つたのである。小経営は、若干の、多く使用された処の補助機能を使用することによつて、槌や、人間の手の裁紙刀を持ってする処の重労働を、減ずるに至つたのである。而して、手で金を押すことも、愈々多く、圧金に代りつつある。是は、

すでに、大都市に於いて、補助工業にまで発展するに至つたのである。このことは、金截面に就いても該当し、而して、将来に於いては、大理石の切断部の生産に就いても、又該当するであらう。次のことは、疑を容れぬ処である。即ち、小親方の個人的堪能性が、最も容易に欠点を示す個処に、生産分割を採用することによつて、小経営は、一層能動的となるに至つたのである。又、より生活能力があるか、否かの問題は、経験のみが、之を教えることが出来るのである。

一般に、上述のことは、印刷された本の製本に就いてのみ、該当するのである。総ての、他の領域に於いては、手工業経営は、最近数十年に於いて、損失のみを蒙むることになつたのである。

かくして、先づ、事務帳簿、家計簿、ノート類、学校の生徒用の帳面、是等は何れも、吾人の、紙の時代に於いては、非常に大量に使用されるのであるが、その製造に就いて見れば、全然、特殊化された大経営に於いて、又一部分は、刑務処労働によつて、非常に安

値に、製造される為めに、大抵の製本経営にとつては、唯、商品としてのみ、問題となり得るのである。彼の特殊製造と並び、尚ほ若干の線引きの施設が、時代と共に、その仕事を最も多く使ふ処の工場仕事に聯結されつつある状況である。

伝統的に、製本者の経営に加へられてゐた処のものは、より根本的に、製本以上に値する労働部門と共に、片付けられるに至つたのである。紙挟み及び書類鞆、小間物類の商品は、三十年以来、オッフエンバハ

(Offenbach) から発して、独得の、大なる種類の工業にまでになつたのである。それは、特に巾着、財布等の登場によつて、又四十年の末葉には、巻煙草を吸ふ習慣の普及によつて、大なる勃興を見たのである。

特殊化された生産は、それが、大、小何れの経営に於いて起ろうと、此の場合、非常に完成されたものを、廉い価格で提供するのである。為めに、製本者は、久しき以来、競争の無能力者たるに至つたのである。而して、すでに、現今、当該商品は、商品としては、殆

ど、其の店には見出し得ないのである。

之と同様なことは、箱や鞆の生産に就いても該当し、是等のものは、紙挟みから、昔の鞆の製作の領域にまで導くのである。之は、主として、次の様な工業の補助工場たるに至つたのである。即ち、それは、金及び銀の器、光学製品、眼鏡等、是等の商品を箱に入れて販売する工業で、強く特殊化された経営に於いては、是等工業の主要所在地に於いてのみ、繁栄するのである。

同様のことは、板紙細工に就いても、云ひ得るのであつて、是は、その用途を、原紙の容器で送付され、而して保管される処の商品の巨大なる増加によつて、数千倍するに至つたのである。是は、大抵、特殊化された大経営に於いて作られ、是等の大経営は、特殊機械を以つて作業を営み、而して、色々の機械的の閉鎖装置を使用することによつて、膠の代りに、近代に至つては、その生産能力を、極度に高めるに至つたのである。チョコレート及び砂糖商品の新流行品、及び滑

稽を主とする玩具の製作、巻煙草、売薬品、カラー、カフス、手袋、帽子、羽根蒲団及び各種の婦人用装身具、小形の装飾品、圧縮された、写真の枠、写真のアルバム、ランプの笠、厚紙玩具、紙提燈、クリスマスツリーの裝飾、手紙の封筒、紙袋、是等の製作は、何れも、製本者の、以前の生産領域から出発したものであった。而かも、是等総ての領域に於いて、その技術は、今日、次の様な処で使用されてゐるのである。即ち、例えば、見本を貼った厚紙の完成の如き、個人的に生ずる欲望を充当する場合、それである。絵画及び鏡を枠に納めることも、或ひは硝子職人の方へ、又或ひは特殊経営の方へ、夫々移行するに至つたのである。かくして、製本者は、その、以前の労働面の是等総ての副領域に対しては、現今、最もよい方面を見ても、唯、尚ほ商人であるに過ぎないのである。製本者は、更らに、全然、本工業に帰属してゐるのである。而して、手工業と工場との間の競争に就いては、製本の領域の上に於いてのみ、尚ほ見る可きものが残つて居る

のである。然し、此処に於いても、一般に、次のことは、否定され得ないであろう。即ち、皮革、板紙細工及びボール箱等の仕事の反撥は、製本業をして、その以前の、包括的の生産領域にあつた場合よりも、より多く給付能力あらしめるに至つたのである。

然し、現今の状態、即ち大経営の、一の全体の系列は、単に製本者の、手工業の、昔の副業領域を引付けるに至りしのみならず、又出版過程が延長されたために、本来の、新しい仕事の大部分を、彼から、引去るに至つたのである。是は、工場が手工業との間の競争で迎へる処の、迂曲された道程の、一の典型である。而して、全体の、製本業によつて、その最初の成立以來採られた過程を回顧することは、次のことを、示し得るであろう。即ち、給養の原則を適用することと、企業の営利の原則を適用することとが、如何に根本的に異なる作用を、自己に及ぼすものであるかを、看取することが出来るのである。若し、前者が、労働共同の基礎の下、数世紀継続した処の努力に於いて、貧弱な

小経営以上には、一度も成功することが出来なかつたならば、後者は、分業によって、僅か数十年の間に、特殊化された、大企業の花環に適するのである。その大企業は、たとひ、古い幹を完全に排除せぬまでも、然し、此の幹を貧弱化の状態に導き、而して、此の幹に對立して、大企業自体は、充実と幸福の印象を容易に起さすのである。